

交流の場と合意形成の場における 会話展開の差異に関する分析

久 隆浩¹

¹正会員 近畿大学教授 総合社会学部環境系専攻(〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1)

E-mail: hisa@socio.kindai.ac.jp

本研究では、地域における交流の場と合意形成の場で行われる会話分析を通じて、両者で用いられている実践手法および会話展開の違いについてあきらかにした。分析の結果、交流の場では、①冗談を言える自由な雰囲気、②前向きな会話のキャッチボール、③次々と起こる場面・話題転換、④open question、の4つのエスノメソッドが、また、合意形成の場では、①後ろ向きな話、②会話内容の確認、③暗黙の了解、④話の打ち切り、⑤closed questionの5つのエスノメソッドが抽出できた。これは、合意形成の場は、迅速で責任のある合意形成を行うための場であるのに対し、交流の場は、自由な雰囲気で行われる前向きな会話が広がり、新しいつながりや活動へと展開していく創発の契機となっている、という場の目的の違いに起因した結果であると考えられる。

Key Words: community planning, emergence, dialogue, platform, consensus making

1. はじめに

筆者は地域まちづくりを活性化するために、交流の場づくりを進めており、その役割や効果について報告を行ってきた。¹⁾²⁾ 本論文はその一環として、「合意形成の場」と「交流の場」における会話展開の違いについて分析を行い、交流の場が創発の場として機能していることを明らかにする。創発(emergence)とは、複雑系の科学でよく使用される言葉で、「局所的な相互作用を持つ、もしくは自律的な要素が多数集まることによって、その総和とは質的に異なる高度で複雑な秩序やシステムが生じる現象のこと」である。交流の場に集まった人々が情報交換を行うことで、新たなつながりや行為が生み出されていく、これを本論文では創発と見なしている。

研究対象としては、交流の場として「近江堂リージョンセンター井戸端会議」(東大阪市)「井高野小学校区まちづくり井戸端会議」(大阪市東淀川区)「東成区まちづくり井戸端会議」(大阪市)を、また合意形成の場として「菱屋西校区自治連合会」「菱屋西校区福祉委員会」「東大阪 G 地域 MAP 製作委員会」(いずれも東大阪市)を取り上げ、6つの場で行われる会話を抽出し、エスノメソッドロジーによる会話分析を行う。

2. 地域における交流の場

筆者も関わりながら関西各地で「交流の場」を開設しているが、これは小学校区を基本単位として、月に1回程度の定例会を催し、情報交換を図るものである。ここは自発的な参加を重視し、参加できる人が参加できるときに参加するオープンな場所である。また、話題もみんな持ち寄ることを原則としている。「まちづくり井戸端会議」という名称で呼んでいるところが多いが、まさに井戸端会議のように、場に集まった人が合意形成を目的としない自由な情報交換を図っている。

しかし、ここからいろいろな取組やネットワークが生まれている。情報交換だけでほんとうに動けるのかどうか、という疑問を抱かれることもあるが、その秘訣は参加者の主体性の高さにある。主体性の高い参加者が集まっているからこそ、いろいろなものが生まれてくる。

伊丹は『場の論理とマネジメント』³⁾において、場における情報的相互作用によって「共通理解」と「心理的共振」が生ずることが重要だと述べている。「心理的共振」とは、元気ががんばりが伝わっていくということであるが、交流の場における情報交換を通じて「共通理解」と「心理的共振」が生まれている。

3. 対話の重要性

交流の場で行われている情報交換は、いわゆる対話であり、対話を通じて創発が生まれているといえる。物理学者の D.ボームは『ダイアログ』⁴⁾のなかで、対話のよさはお互いの価値観や意見の違いを認め合い、自由に意見交換ができる点にあると指摘している。そのために「対話はリーダーを置かず、何の議題も設けずに行うべきだ」とボームは言う。「対話においてはいかなる課題も設定せず、いかなる有益な事柄も達成しようとすべきではない、ということである。有益な目的やゴールを達成しようとするなり、何が有益なものかという想定が生まれる。そうした想定が対話を狭めてしまう」

また、ボームは次のように述べている。「対話グループでは、どんなことに関しても決定を下したりはしない。この点が重要である。さもなければ、参加者が自由だと言えないだろう。人は何かをしる義務づけられていない、空白のスペースを持つ必要がある。または、いかなる結論も生まれず、何を言えとか言うなとか指示されないスペースだ。それはオープンで自由な、空のスペースだ。」

「対話の目的は、物事の分析ではなく、議論に勝つことでも意見を交換することでもない。いわば、あなたの意見を目の前に掲げて、それを見ることなのである。－さまざまな人の意見に耳を傾け、それを掲げて、どんな意味なのかよく見ることだ。自分たちの意見の意味がすべてわかれば、完全な同意には達しなくても、共通の内容を分かち合うようになる。ある意見が、実際にはさほど重要でないとわかるかもしれない－どれもこれも想定なのである。そして、あらゆる意見を理解できれば、別の方向へもっと創造的に動けるかもしれない。意味の認識をただ分かち合うだけということも可能だ。こうしたすべての事柄から、予告もなしに真実が現れてくる－たとえ自分かそれを選んだわけではなくても。」

従来の都市計画では、あまりにも合意形成を求めすぎたきらいがある。たしかに、土地利用権など個人の財産権を制限する都市計画では合意形成は重要である。しかし、議論の場面では、厳格な合意形成を求めれば求めるほど話はこじれていく。意思決定の場では、自分の意見を通そうとするが、そのために相手の意見をつぶそうとしがちになる。それが雰囲気悪くする。一方、対話の場では、お互いが自由に意見交換をし、相互理解が促進される。

4. エスノメソドロロジーによる会話分析

では、具体的に、交流の場と合意形成の場では、どの

ように会話の展開が異なっているのであろうか。その点をあきらかにするために、交流の場として「近江堂リージョンセンター井戸端会議」「井高野小学校区まちづくり井戸端会議」「東成区まちづくり井戸端会議」を、また、合意形成の場として「菱屋西校区自治連合会」「菱屋西校区福祉委員会」「東大阪 G 地域 MAP 制作委員会」を取り上げ、これら 6 つの場で行われた会話を抽出し、エスノメソドロロジーによる会話分析を行う。

エスノメソドロロジーは、社会学者の H.ガーフィンケルがつくった造語であり、民族や人種を表す *ethno* と方法論を表す *methodology* を組み合わせた言葉である。私たちが日常何気なく用いている方法論を見出そうとする試みである。会話分析では、日常会話のやりとりの中で用いられている方法論を抽出することができる。

5. 対話の場におけるエスノメソッド

会話分析の結果、交流の場では、①冗談を言える自由な雰囲気、②前向きな会話のキャッチボール、③次々と起こる場面・話題転換、④open question、の 4 つのエスノメソッドが抽出できた。

(1) 冗談を言える自由な雰囲気

表 1 は、終了 10 分前に駆けつけた人への対応のやりとりである。たった 10 分でも参加したいと駆けつけた人を冗談や笑いで出迎える様子がわかる。

表 1 冗談を言える自由な雰囲気

T:遅いな↑:::
O:ああ:::こん↑ばんは:::
(1.5)
一同:笑
M:お疲れ様です。
F:こんばんは:::ちょっとだけでも話して↑皆さんの顔を見ようと思って。
Tu:お疲れ様です。
Y:Fさん。もう終わりやで(笑)
一同:(笑)
F:顔だけでも見ようかと思ひまして
Y:ワシ↑も今来たトコや!!
一同:(笑)

↑会話の調子が上がっている状態

:音が延ばされた状態

(2) 前向きな会話のキャッチボール

交流の場では、表 2 の会話に見られるように、前向き

な話が次々とつながっていく。

表2 前向きな会話のキャッチボール

I: 去年、今年とピクコミュもだんだん良くなってから、来年のメインも頼むで(笑)年数を重ねることにもっと大きなものにしたいからね。
(中略)
O: 人数を集めるのは任せてください。
On: ホントにね。親御さんも本当に楽しかったみたいで、「来年からも是非企画して頂きたいし、自分たちも手伝いたい」って言ってくれた人もいるからね。本当に良かった。
I: 大学生も20人以上。子どもと親合わせて35人くらい来てくれて。
O: 最高のいい思い出になったよね。
I: 来年も来たいって言う子も沢山おったし。
O: 経験した子から、横々で話が伝わっていけばもっともっと育つん違う? 私たちも声掛けし!
I: 後はビデオでも撮っておけば良かったなあ。どこかで上演して。盛り上がるで。来年はピースコンサートあたりで流そうか?
T: 多少は撮ってますね。
I: バサッと上からず〜っと撮っておくような感じでね。時代が時代やから顔を映らんようにしてね。楽しいね〜。

(3) 次々と起こる場面・話題転換

交流の場では次第が用意されず、自由に会話を楽しむようになっている。そのため、話題が四方八方に広がっていく。表3がひとつの例であるが、中学校が荒れているという話から、顔を見て話さない中学生の態度、子どもの見守り活動へと、話が展開していく。その結果、地域における中学生の状況について総合的に話ができるようになっていく。

表3 次々と起こる場面・話題転換

A: それぞれ可愛い子が6年生で卒業して行って、何で中学でそうなるのかっていうのが、そういうのが何ヶ月かほんの数ヶ月の事であるのが凄く心配かなあ、と思ってます。
J: 東淀川はどこの1年も何か荒れてるって聞いたんですけど。
(中略)
E: まあ、どこの中1もっておっしゃったけども、平和に見える
H 中学の今年の中1のクラブの加入率ってめちゃくちゃ低いらしいんですよ。今の中3…うちの子中3なんですけれど・・・
(中略)
E: だからサッカーやってて…怒る時に「まあ、座れや」って、同じ目線で話すと目そらすのね。
(中略)

C: あんまり顔を見て話さない。

F1: 先ほど「見回り隊」の話出たでしょ?見回り隊の方もあの、中にはその見回り隊のジャンパー着てたら安心されるんだけども、普通に買い物とかこう、店で「よお」とか言われたら、「誰ー」っていう、

(中略)

F1: うん、そのジャンパーだけで安心してるところねえ。あの、朝と下校時間の立っててくれるおっちゃんか顔見て無くともう、その腕章とかジャンパー着てるおっちゃんっていう感覚。

(4) open question

open question、closed question はカウンセリングやコーチング等で用いられる質問手法の分類で、応答内容を相手に委ねる質問形式を open question、相手が「はい」「いいえ」あるいは一言で答えられるような質問形式を closed question という。話を広げていくための場である交流の場では、open question での質問が多用される傾向が見られる。

6. 合意形成の場におけるエスノメソッド

一方、合意形成の場では、①後ろ向きな話、②会話内容の確認、③暗黙の了解、④話の打ち切り、⑤closed question の5つのエスノメソッドが抽出できた。

(1) 後ろ向きな話

合意形成の場では、表4に示すように、問題の発生を回避しようと話が後ろ向きになることが少なくない。

表4 後ろ向きな話

Ta: ウチの地域ではMAPにおすすめ店舗やスーパー(具体名)を載せようと考えています。
委員長: 個人的にはスーパーなんかを載せる事は厳しいのではないかとと思うけれども、その点については皆さん意見を募りたいと思います。どうですか?
H: 個人事業店を明記することには反対です。絶対文句が・・・絶対出てきますわ。
Y: 自分とこが載ってないのになぜそこだけってね。
N: でもウチとこもいくつか載せたい。
H: 前にもありまっしゃろ。なんであそこが載っててウチが載ってないんやって。絶対色んな所で問題になる。

(2) 会話内容の確認と暗黙の了解

「会話内容の確認」と「暗黙の了解」は対になって用いられることが多い。表5に示すように、今までの会話

内容を確認をする手続きを踏み、それに異議を唱えないことによって暗黙に了解するのである。

表5 会話内容の確認と暗黙の了解

S: (朝のラジオ体操の報告が終わって) ありがとうございます。まあ、後6日間ですので皆様も都合がよければ参加して頂けたらと思います。えー今までのところでご質問…何かございませんか?
…(反応なし)
S: …無いようでしたら7番まいります。

(3) 話の打ち切り

話の打ち切りとは、会話を指示的に進めていく手法である。

表6 話の打ち切り

T: 次席川↓
Y: (1.5)まだ↓一回も来てへん↓…。
T: (0.5)私が責任をもって次回までに出席させます↓。調整してます。
T: 次～

(4) closed question

合意形成の場では話を収束させるために closed question が質問に用いられることが多い。

表7 closed question

S: 皆さん祭日はどうですか～?…都合悪い?えっ?
…(何も言わず)
A: えっ…どう?悪い人いてはる(笑)?
……(何も言わず)
A: 無ければ月曜開けられるか聞いてみますわ。なら来月 8 月に決めましょ。ほな月曜な。

7. まとめ

以上見てきたように、交流の場と合意形成の場では、会話に際して全く異なった方法論が用いられている。合意形成の場では、迅速で責任のある合意形成を行うための手法が用いられているのに対し、交流の場では、自由な雰囲気や前向きな会話が広がっていくことがわかる。そして、そのことが新しいつながりや活動へと展開していく契機となっているといえる。こうした結果からも、従来からの合意形成の場だけでなく、地域における交流の場を設置する意義が見いだせる。

補注

本研究は、2010 年度近畿大学大学院修士論文「地区まちづくりにおける対話の場の意義に関する研究」(福田惇一)の一部を援用したものである。

参考文献

- 1) 久 隆浩: 地域における交流の場づくりを通じた合意形成の意味と必要性に関する考察, 第29回土木計画学研究発表会講演集, 2004.
- 2) 久 隆浩: ポリエージェントシステムとしての住民主体の地区まちづくりの可能性, 都市計画238号, 2002.
- 3) 伊丹敬之: 場の論理とマネジメント, 東洋経済新報社, 2005.
- 4) Bohm, D. J.: On Dialogue, Routledge, 1996. (D.ボーム: ダイアログ, 英治出版)

ANALYSIS ON DIFFERENCE OF CONVERSATION PROCESS IN PLACE OF EXCHANGE AND IN PLACE OF CONSENSUS BUILDING

Takahiro HISA

In this study, the difference between the ethno-method used in the place of the exchange and the place of the consensus building and the conversation process was clarified through the conversational analysis. As a result of the analysis, Four ethno-methods, 1) free atmosphere that can joke, 2) communication of positive conversation, 3) change of subject which happens one after another, 4) open question, were extracted in the place of the exchange, and five ethno-methods, 1) backward story, 2) the confirmation of the conversational content, 3) the unspoken assumption, 4) discontinuance of talk, 5) closed question, were extracted in the place of the consensus building. It is thought that this is a result of originating in the difference of the purpose of the place, which the place of the consensus building is a place to do a consensus building that is prompt and is responsible, and the place of the exchange extends in free atmosphere a positive conversation and is a place of the emergence that develops with a new connection and the activity.